

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部



令和八年一月度 入賞句一覧 投句数 五百九十七句

特選

度会 さち子 選

アルバムの昭和百年日向ぼこ

大垣市 平野 きぬよ

昨年は昭和百年、戦後八十年の年であつた。そんななかで、我が家の歴史が詰まっている。はるばるのアルバムを紐解く。戦前の村や町の様子、初めて見るひい爺さん、婆さんの姿。稲刈りや牛小屋あたりの写真、防空壕の前での写真など、また入学式、卒業式などの家族写真。アルバムを繰りながら、あらためて平和であり、今の自分があることを思いながらの日向ぼこ。ほつこりとした温とさが伝わってくる。

雪の音を訊ぬる手話の小さき指

大垣市 吉田 てるみ

雪は音なく降り、積もる。雪に音がしないことを知っている。だが、ひらひらと、またこんこんと雪が降ると書かれたものから、耳の不自由な方は実際にどんな音がすると思うのだろうか。傘に降る雪は傘がたてる音がある。雪が風に舞い、梢をわたる風の音を、雪の音というのかもしれない。「雪の音」や「雪の匂い」と書く時、そこには詩がある。手話の小さな指は詩人の指。どんな風に回答をされたのだろう。

初笑ひしたり食つたり叱つたり

大阪府堺市 棕本 望生

新年の団欒の活き活きとした様子が詠まれている。福笑いやかると取り、双六などの昔ながらの遊びに加え、いろいろなゲームもあるのだろう。笑つたり、食つたり、叱つたりと。笑顔や笑い声、母親のしかる声も聞こえて来そう。対句もうまく活きており、お正月の句として初めて見た句で、とても楽しい句だ。

秀逸

立冬や我と猫の耳冷たきて

大垣市 森田 和子

凧にかまえ不動の大櫓

不破郡垂井町 児玉 信子

泥酔も一喝したり雪起し

大垣市 浅野 翔泉

初日の出小さな願いあたためる

不破郡垂井町 中嶋 結映

馬駆ける絵馬を背景初写真

不破郡垂井町 久保田 紘義

水仙の武家娘ほど凜として

大垣市 水谷 義雄

波打つて飛ぶ冬空の群れ雀

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

冬薔薇やひとり残れる面会室

東京都新宿区 山崎 力

不意にきて枯葉持ち去る又三郎

岐阜市 辻 雅宏

牛乳をあたためて飲む一茶の忌

京都府宇治市 八田 弥須子

## 入選

落葉敷く火伏せ銀杏の本能寺

揖斐郡池田町

小川 智恵子

神留守の熊野静かに靄ひける

和歌山県日高郡

水野 あき

やはらかな日矢奪ひ合ふ石蓐の花

大垣市

宮脇 和子

マフラーに包む少女の束ね髪

大垣市

早筈 千恵子

初東風や古りし川舟たゆたふと

東京都板橋区

柳瀬 姫香

しばらくは鳩の回旋初御空

大垣市

北浦 典子

足裏に板のきしみや初参り

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

面を打つ竹刀の軋み寒稽古

大垣市

高田 雅章

老いゆくも日日新たなり竜の玉

東京都世田谷区

関戸 信治

絵双六の折り目を延ばす手の揃ふ

安八郡輪之内町

野村 照子

冬野ゆく吾が晩年のさわやかさ

滋賀県甲賀市

奥村 僚一

早暁や漁船迎ふる浜焚火

三重県四日市市

後藤 允孝

それぞれに添ふる一句や年賀状

愛知県豊田市

城山 悠水

家仕舞ひ迷ふ実家の松手入

三重県四日市市

藤田 勝民

さようなら故郷ピアノ売る師走

埼玉県さいたま市澤田

紫

## 選者吟

寒鳥修行の僧の前歩く

さち子



## 一般の部